プレスリリース（仮訳）

2016 年検査指摘事項調査

不備のある監査は引き続きわずかに減少；監査実施における一貫性の欠如を依然として懸念

2017 年 3 月 3 日

監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）による年次の検査指摘事項調査は、検査指摘率の全体的な減少を示した。他方で、指摘率の高さを引き続き IFIAR は懸念している。指摘の性質と程度は前年と比較して類似している。本調査結果は全体として、高品質な監査を実施するための一貫性が欠如していることを引き続き示しているとともに、監査人の独立性という重要な分野を含む、法人全体の品質管理態勢に継続して取り組む必要があることを指摘している。IFIAR は 6 大監査法人ネットワークの法人との対話を継続し、法人の品質管理の分野での基準設定について検討を行っていく所存である。

強固な根本原因分析及び改善措置の実施は、求められる監査品質の水準を引き上げるために必要不可欠なものである。監査法人が適時に、かつ、繰り返し発生する根本原因問題に対する分析を、それが肯定的であれ否定的なものであれ行い、適切な対策を講ずるという手順を実施することが重要である。IFIAR は、根本原因分析の実施手法は、大規模法人ネットワークによって、さらにネットワーク内においてもばらつきがあると認識しており、この分野において、より一貫しかつ強固な取組を求めてきた。

2015 年、IFIAR の国際監査品質作業部会（GAQWG）は、6 大監査法人ネットワークに対し、当該作業部会のメンバーが IFIAR の年次検査指摘事項調査の中で報告する、不備の見つかった監査の数（少なくとも一つの指摘を受けたもの）を、2019 年までに 25%以上減少させるという目標を設定した。検査指摘事項は監査品質の変化に関する唯一の指標ではない。IFIAR は 2018 年の報告書において、進捗状況を報告する予定である。

2016 年検査指摘事項報告書

IFIAR の 2016 年検査指摘事項報告書は、システム上重要な金融機関（SIFIs）を含む上場企業の監査、及び、監査法人の品質管理システムについて、世界の 36 の IFIAR メンバー当局から提出された主要な検査結果をまとめたものである。検査指摘事項は、監査法人が監査意見を裏付けるのに十分かつ適切な監査証拠を入手していなかったことを示す、監査手続上の不備である。しかし、このことは当該財務諸表にも重要な虚偽表示があることを必ずしも示唆するものではない。

法人全体の品質管理態勢という重要な分野においては、あまりに多数の監査法人が、監査業務の実施（審査や調書管理等）（49%）、独立性及び職業倫

理（40%）、人事管理（31%）及び品質管理態勢の監視（28%）の分野において、引き続き高い指摘率を示した。品質管理態勢に係る各分野での指摘率は減少したが、更なる改善が必要であると IFIAR は考えている。監査法人は監査不備が繰り返し発生する原因を突き止めるための手法を探求し、態勢のさらなる改善がより一貫性のある監査の実施に繋がるかを見極めるために、既存の品質管理態勢に挑戦し続けるべきである。

34 の IFIAR メンバー当局は、121 の監査法人が実施した上場企業 855 社の監査に対する検査からの指摘事項を報告した。また 12 のメンバー当局は、35 の SIFIs 監査における検査での指摘事項を報告した。改善が見られたものもあるが、IFIAR は、前年と比べた検査指摘率と指摘の総数に懸念を抱いている。1 つ以上の不備が指摘された監査の数は、上場企業の監査においては 42%、SIFIs の監査においては 49%と、受け入れ難いほどの高さを示している。

個別監査業務について指摘の最も多かった検査のテーマは、概して 2015 年報告書と整合的である。即ち、公正価値測定を含む会計上の見積もり（32%）、内部統制の有効性評価（18%）、収益認識（13%）及び、2016 年報告書から新たに追加されたテーマである、サンプリング（17%）であった。SIFIs 監査においては、内部統制の有効性評価が繰り返し指摘されるテーマであった。

本年の調査結果は、2016 年 6 月までに終了した最も新しい事業年度において IFIAR メンバーが発行した検査結果報告に基づいている。従って、本調査は遅行指標であり、現在の監査実務を反映していない可能性があることに注意が必要である。本調査は、監査品質について、実証的又は統計的に有意な変化を測定することを意図したものではない。むしろ、監査実施上改善すべき分野を議論するために役立つ評価基準を提供し、財務諸表に関する監査意見の信頼性向上に向けた課題をよりよく評価するための IFIAR の取組への情報提供を行うものである。

今後

検査指摘事項の削減目標に加えて、IFIAR は引き続き監査ネットワークの指導部及び実務者との直接の協力を行い、検査指摘事項、監査品質に関するテーマ及び監査法人の戦略、そして監査品質全体の向上のための取組について議論していく。

IFIAR は、本調査の実施や、最大手の監査法人ネットワークへの働きかけを行いつつ、今後も監査品質の向上への監視を続けていく。メンバーは、目に見える品質向上に結び付く取組を監査法人が行うことを期待している。我々の調査の結果は、国際的な監査品質改善のための IFIAR による集約的な取組

について、各当局者の監査法人検査や監督の枠組みへの補完的な情報提供を行うものである。

IFIAR は基準設定主体と、品質管理といった検査で最も頻繁に指摘される分野に係る基準が、監査人の行動のさらなる一貫性やコンプライアンスの強化にいかにかに寄与するかについて、他の規制当局や政策立案者とともに、メンバーの検査を通じて提起される問題をさらに議論していく。

***

監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）は、2006年に組織され、現在では、アフリカ、北米、南米、アジア、オセアニア、ヨーロッパの52か国・地域の独立した監査監督当局で構成されている。公益に資するとともに投資家の保護を強化するため、IFIARは、世界中の監査品質や規制実施について、対話や知見の共有ができるプラットフォームを提供し、規制活動について協調や一貫性を促す。IFIARの公式のオブザーバーは、バーゼル銀行監督委員会（BCBS）、欧州委員会（EC）、金融安定理事会（FSB）、保険監督者国際機構（IAIS）、証券監督者国際機構（IOSCO）、公益監視委員会（PIOB）及び世界銀行である。IFIARに関する更なる情報は、IFIARウェブサイト（www.ifiar.org）を参照されたい。